

平成28年8月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成28年8月25日 (木)		
2 開会及び閉会	開会	10時00分	
	閉会	10時30分	
3 出席委員	委員長	東 條 光 彦	
	委員	奥 津 晋	
	委員	塩 田 澄 子	
	委員	藤 原 佳 代 子	
	委員 (教育長)	山 脇 健	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	安 田 充 年	教育次長	天 野 和 弘
統括審議監	小 西 洋 史	審議監 (学校教育担当)	三 宅 泰 司
審議監 (生涯学習担当)	後 河 正 浩	審議監 (教育人事財務担当) (人事財務課長事務取扱)	石 井 雅 裕
教育企画総務課長	赤 野 政 治	学校施設課長	齋 藤 和 美
就学課学校環境調整担当課長	東 谷 徹	指導課長	岡 林 敏 隆
保健体育課課長代理	泉 利 絵	生涯学習課長	近 藤 康 彦
生涯学習課課長代理	安 東 信 哉	文化財課長	乗 岡 実
教育研究研修センター所長	中 島 陽 子	中央図書館長	宮 本 嘉 彦
中央公民館長	片 岡 正 人	オリエン特美術館長	佐 藤 佳 昭
地域子育て支援課課長補佐	田 中 光 彦	保育・幼児教育課幼児教育専門監	山 内 徳 子
事務局 (教育企画総務課主査)	生 田 裕 宣	事務局 (教育企画総務課主任)	長 森 晴 子
5 議題及び結果			
第 15 号議案	平成27年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について		原案可決
6 教育長等の報告	[平成28年7月16日 (土) ~平成28年8月12日 (金)]		

7/24	岡山市子ども会親善球技大会	地域子育て支援課
7/25	ジュニア・オリエント教室 古代の動物デザインパズルをつくろう！	オリエント美術館
7/30～8/1	わくわく犬島探険隊	地域子育て支援課
7/31	岡山市ジュニアオーケストラ第52回定期演奏会	地域子育て支援課
8/2, 3, 10	岡山市就学・教育相談会	指導課
8/3	平成28年度「開かれた学校づくり・地域協働学校フォーラム」	指導課 生涯学習課
8/4	ますかっど夏季講座	指導課
8/5	OKAYAMAスマホサミット2016成果発表会(兼 県生徒指導推進大会)	指導課
8/5	市学童水泳記録会	保健体育課
8/8	学習指導要領の着実な実施に向けた岡山市説明会	指導課
8/9	第2回総合教育会議	総務法制企画課
藤原委員	○ 学習指導要領の着実な実施に向けた岡山市説明会について、学習指導要領が少し見えてきたようだが、参加人数の内訳、例えば教務主任、主幹教諭がいたとか、内容を説明願いたい。	
指導課長	○ 参加者が160名、各校1名以上ということで参加をお願いした。主に研究主任、教務主任の方、その中には主幹教諭の方や指導教諭の方も当然入っている。その内訳はつかんでいないが、各学校の研究体制を推進する方に来ていただいて、かなりいい協議になった。	
藤原委員	○ 次期改訂に向けて、あらかじめ助走か、もう大分動き出しているのかは分からないけれども、準備段階に入っているということか。	
指導課長	○ 準備段階というか、次期改定に向けて、この会もそうであるし、時期を捉えて学校には説明しているという状況である。	
藤原委員	○ ぜひそうしてほしい。アクティブラーニングという抽象的な感じでもう学校が行っていると思うが、本当の真髄は違うと思うので、そのあたりをうまく準備期間として進歩してほしい。	
奥津委員	○ ますかっど夏季講座は、おそらく授業改善の取組だろうと思うが、参加人数30人ということで、内容と今後の広がりというか、その成果を浸透させるようなプランについて説明願いたい。	
指導課長	○ これは希望者を募って参加を呼びかけたものである。小学校の国語と理科の模擬授業を指導教諭が1名、それから学力向上プロジェクトチームという学力をテーマにした現場の先生と指導課の指導主事とのチームを作っているのだけれども、そのスタッフの方に1つずつ授業をしていただいた。若い方もたくさんおられたけれども、中にはベテランの方もおられて、改めて授業づくりのポイントといったことを認識していただいた。そこからいろいろなところへ広がっていくことを期待している。昨年度も同じことを行ったけれども、結構評価が高く、実は今日の午後から残りの算数と社会科で同じようなことを取り組む予定にしている。	
奥津委員	○ 参加人数が30人というのは、希望者だけであるとするとな少ないのかなという気がする。できるだけ広くノウハウというか、気づきみたいなものが広がっていく形にすべきだろうと思う。	
指導課長	○ 模擬授業であるので、一つの教室をイメージしての参加人数である。それから、参加した方がいろいろなところで広めていただくということも期待している。そういったお願いも最後にまとめるところでしていく予定である。	
塩田委員	○ 「開かれた学校づくり・地域協働学校フォーラム」について、どんな方が参加されたのかということと、成果について報告願いたい。	

生涯学習課課長代理	○ 当日の参加者であるが、266名のうち、学校園の教職員の方が170名、一般の方が96名の参加であった。それぞれ幼稚園・認定こども園から43、小学校90、中学校36、高等学校1の参加があった。当日、文部科学省の廣田貢氏の講演や岡山市の地域協働学校の実践発表などがあり、それぞれの方から、このような実践をやったらよいと分かったとか、地域の中でどのような子どもを育てていったらよいのかということを考えていくことが大事であるとか、そのような声をいただいている。
塩田委員	○ これまでの会議の時に、地域協働学校が、各地域ではいいものをされているので、こういうつながりを持っていただきたいということを言ったのだけれども、これはそういったつながって情報共有するという場にあたるということか。
生涯学習課課長代理	○ このような場で地域の方と学校園が一堂に会して、同じ話、同じことを考えていくことは、どのような地域づくりをしていったらよいかということを考える貴重な場になっていると考えている。
藤原委員	○ 8番目のスマホサミットについて、主催は岡山市の指導課なのか。それとも県の関係なのか。
指導課長	○ 県教育委員会と、それから山陽新聞社、岡山市教育委員会と3者の共催という形である。
藤原委員	○ ということは、400人というのは岡山市内の関係者だけではなく、県下の人も入っているということか。
指導課長	○ そうである。
藤原委員	○ テレビのニュースで拝見して、とてもいいことだと思った。ただ、広報で我々にもその日程が事前に分かっていたら、のぞかせていただくことができたのかなということと、もう一つは、これだけスマホのことをいろいろ言っているわけだから、学校教育関係だけではなく生涯学習関係、PTAを巻き込むような形での共催化ということはできないのかなという感じがするのだが、それはどうか。
指導課長	○ とりあえず今年度の取組はこの成果発表で一区切りだが、来年度についてはまだ計画が明確ではないところもあるので、今後そういった形がとれるのかどうか研究していく必要があると考える。
藤原委員	○ 子どもたちがいろいろ考えて頑張っていると思うけれども、やはり家庭で支えるといったことがないと広まらないと思うので、またいろいろ工夫していただきたい。
委員長	○ 他にはいかがか。よろしいか。
全委員	○ 〈なし〉

7 議事の概要

委員長	○ 8月定例岡山市教育委員会を開催する。
委員長	○ 本日の傍聴希望者は1名。入室してもらってよいか。
全委員	○ 〈承認〉
委員長	○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。
全委員	○ 〈承認〉
委員長	○ 日程第2、7月定例会の議事録に問題はないか。
全委員	○ 〈承認〉
委員長	○ 日程第3、本日は事業報告の前にご報告がある。本日の会議において、「岡山市教育委員会事務局職員の人事について」を議案として追加し、第18号議案とすることをご報告する。本議案は招集通知後の緊急を要する事件であり、会議規則第5条第3項の規定に該当するため、告示をすることを要せず、会議に付議するものである。お手元に追加差し替え資料も配付されていると思う

<p>委員長</p>	<p>のでご覧いただきたい。</p> <p>○ 教育長等の報告，事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 議事に入る前に会議の公開・非公開について諮る。日程第4の第16号，第17号及び第18号議案は，任免，賞罰等職員の身分取扱いその他人事に関する事項として，岡山市教育委員会会議規則第9条第1項第1号に該当するため，非公開としたいがよいか。</p>
<p>全委員 委員長 委員長 教育企画総務課長</p>	<p>○ <承認></p> <p>○ それでは先の議題は非公開とする。</p> <p>○ 日程第4，第15号議案を説明願う。</p> <p>○ 第15号議案の提案理由であるが，平成27年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い，その結果に関する報告書を議会に提出し公表するにあたり，教育委員会の議決を経ようとするものである。</p>
	<p>では，点検・評価報告書についてご説明をする。定例会資料の1をご覧いただきたい。本報告書は，地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき実施している教育委員会の事務に関する点検・評価の結果をまとめたものである。</p> <p>2ページをご覧いただきたい。</p> <p>本点検・評価は，教育行政の組織的，継続的な改善，市民への説明責任，教育振興基本計画の見直しやアクションプラン策定のための資料づくりといった目的から実施しており，今回対象となるのは平成27年度の教育委員会の活動とアクションプランに掲載した事務事業となる。</p> <p>3ページから7ページまでは，教育委員会会議の開催状況とその他の活動状況について記載している。今回から総合教育会議の出席に関する内容を加えている。</p> <p>8ページには教育振興基本計画の概要と本市の教育行政のPDCAサイクルについて記載している。</p> <p>9ページから10ページには，6つの政策，15の施策の体系図を示し，主な事業を紹介している。</p> <p>11ページから19ページをご覧いただきたい。</p> <p>平成27年度のアクションプランのクローズアップを掲載している。ここでは，本市の喫緊の教育課題の解決に向けて，事業間，施策間の連携を図りながら，横断的かつ重点的に取り組んだ事業を集めたものである。テーマごとに見開きで左のページに重点的に取り組んだ事業を，右のページに成果や課題などを掲載している。</p> <p>20ページから35ページについては，15の施策を自己評価した部分である。ここでは，評価指標に基づいた施策の評価を行っているが，評価資料として岡山市の教育に関する総合調査や全国学力・学習状況調査などの結果も参考にして，より客観的な評価ができるように努めている。これらをもとに，成果と課題を整理し，それを受けて今後の方向性をまとめてある。</p> <p>36ページ，37ページでは，政策評価についても各施策の評価指標をもとに評価を行っている。ここまでが教育委員会としての自己評価の部分である。</p> <p>38ページから40ページであるが，外部評価委員のご意見である。外部評価委員は岡山スポーツ会館代表取締役社長の江尻博子氏，岡山大学教育学研究科教授の高瀬淳氏，そして岡山大学教育学研究科教授の熊谷愼之輔氏に依頼をした。江尻委員は企業の経営家，高瀬委員は教育行政，熊谷委員は生涯学習がご専門で，お二人とも教育研究研修センターが実施する研修講座の講師を務めるなど，岡山市と関わりがあり，岡山市の教育に詳しい方である。</p>

外部評価委員の評価書では、江尻委員からは改訂学習指導要領における「特別の教科 道徳」の実施を待たずに子どもの思いやりの心を育てる授業を早期に実施してほしいとの意見をいただいている。高瀬委員からは市民協働の人づくりのイメージを明確に取り組んでいることについて肯定的な評価をいただく一方、そのイメージについて市民に対してさらなる理解が図られることが望ましいという意見をいただいている。また、熊谷委員からは生涯学習、社会教育の事業の指標において参加者がどれだけであったかという観点ではなく、どのような効果があったかという観点も必要とのご意見をいただいている。

4 1 ページをご覧ください。

7月20日には外部評価委員と教育委員の会議を開催した。この会議では、本市の教育行政の改善すべきポイントを明確にし、今後の教育行政に生かすことを目的として意見交換を行った。主な意見としては、本市の教育行政については、市民協働の人づくりをさらに推進するとともに、岡山市としての強みを積極的にアピールする必要がある。また、本市の点検・評価システムについては、より効果的な評価指標となるよう定量的評価と定性的評価の両方で評価すべきというご意見もあった。

4 2 ページをご覧ください。

自己評価と外部評価委員からいただいた意見をもとに、改善のポイントを明らかにして、教育行政の方向性と点検・評価システムの方向性について示している。

まず、教育行政の方向性であるが、市民協働の人づくりの推進については、特に事業者に対する広報、広聴活動を充実させていく。次に、道徳教育の充実については、郷土の題材を資料としてまとめた教材を作成して、道徳教育を効果的に進められるものにしていく。最後に、学び続ける教職員の育成については、特色ある教職員採用試験の実施や校内でのOJT推進を重点的に取り組んでいくものとしている。

次に、点検・評価システムの方向性であるが、定量的な評価と定性的な評価をどのように取り入れていくかについては、教育振興基本計画の改定時に検証しながら、より効果的な評価となるよう努めていく。

4 3 ページ以降は、自己評価のもととなった各事業の概要と評価を参考としてお示ししている。

以上で平成27年度点検・評価についての説明を終わる。ご審議をお願いします。

委員長

○ 今説明のあった平成27年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について、ご意見・ご質問等があるか。

藤原委員

○ この点検・評価報告書は、年々分かりやすくなっている。表記の仕方も分かりやすいし、内容もある程度選択と集中が進んでいるという感じがする。それでもまだまだ多いとは思いますが、とりあえず全体を見るということではいたし方ないかなと思う。

この前、外部評価の委員会に私も出席させてもらって感じたことは、三者三様でそれぞれの専門家が言うてくださっているが、共通していることは、どこかでつながりが足りないところがあるということであった。例えば、今の市民協働といえ、岡山っ子育成条例に4者の責務が書いてあるけれども、私個人の考えでも、事業者に関しては薄いかなという感じがする。そのあたりを評価委員の方も言うてくださっていたと思う。

前回言ったかもしれないが、今後、例えば生涯学習のように学校教育以外とつながる部署があるわけであるが、教育委員会の事務局の中に具体的に事業者とつながるコーディネーター役をする人、市役所内での事業者の関係のと

	<p>ころともつながり、全体的につながり人を入れていったらいいのではないかという感想を持った。事業者も、PTAは全員がどこかには関係していると思う。地域は地域だけでも、保護者はどこかで仕事をしているわけであるから、そういう意味では心強いと思うし、もう少しお互いに行き来ができていいのかなという気がしている。</p> <p>それから、評価のところで、我々がアウトプット、アウトカムということにこだわり過ぎているところもあるのではないかと。両方の兼ね合いをうまくとって、これでしかあらわせないものもあるということで、きちっと分析して使っていくことで効果があるのかなという感じがした。</p>
<p>委員長 藤原委員 塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今の発言はご意見ということでよいか。 ○ はい。 ○ 評価のところで、定量的な評価と定性的な評価という話があったが、確かに今見返してみると、参加者の人数や点数とか、定量的な評価が多いのかなと思った。おそらく、公民館の講座やいろいろなところでアンケート等をとっているのではないかと思うのだが、例えば参加者の満足度であるとか、人数にマッチしていたかといったアンケート等を活用して、この定性的評価の中に、指標の中に入れ込むことができないかと思った。 <p>特に、ニーズの発掘はとても大切なことなので、ニーズに合っていないということであれば、どんなニーズが求められるのかということもアンケート等ととっていいのではないかと。少なくとも私が参加したところでは、結構そういったアンケートをとられているので、それをこういったところでうまく使えないかなと思う。</p>
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今の点に関してはどうか。実際の事業や各公民館でいろいろな利用者アンケート等を行っているけれども、直接的には報告書に反映されないにしても、事業を行ったり起こしたりするとき、当然参考資料になっているということでよいか。
<p>中央公民館長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートの集計等を具体的にどのように使っているかは私も存じていないが、そういった活用に向けてアンケートをとることは有効かと思う。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今、各公民館で独自に、それぞれの講座がどうだったかといったアンケートをとっているということでよいか。
<p>中央公民館長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各公民館における主体講座においては、そういった講座に対してのアンケートをとっていると思う。
<p>塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市で把握したいこと、共通のアンケート項目みたいなものをそういったところで入れ込んでいただければいいのかなと思う。昔の話だが、講師をしたときには必ず講師に満足度等をフィードバックしていただいていた。だから、アンケートはとっていると思うので、それをうまく活用できたらいいと思う。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ では、一つの意見として、この報告書そのものというよりは、今後のご意見ということである。 <p>私から一つ、今ご指摘があった点であるけれども、42ページに今後こうしていくということが3点にわたってまとめられていて、1点目に事業者に向けた広報広聴活動を充実させていきたいということが明示されてるけれども、具体的にどんな感じで行うといった、まさにアクションプランというようなものはありそうか。</p>
<p>教育企画総務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現時点で具体的にこういう方向というのはまだ考えていないが、例えば小学1年生、入学される方に市民協働の岡山っ子育成条例のパフレットを配布したりといった形をとっているのだから、何かしらの方法でそういった4者による協働の取組ということを周知していきたいと考える。具体策についてはこれから考える。

委員長	○ 今度、教育委員に事業者の方が入られる予定なので、そんなルーチンになるのかなという期待をもっている。この点はずっと指摘されているところであり、なかなか企業もすごく力点を置いてとはなりにくい部分かと思うが、お手伝いいただかないといけないことであり、そのように定められていることなので、どこか窓口を決めて広めていってほしいと思う。 他にはいかがか。
奥津委員	○ 毎年、点検・評価の報告書があって、こうやって改善点を外部評価委員に出してもらい、教育委員会としてもこういった形でこういう点を変えていこうと、最後に結論として方向性を出している。 ある程度、それを施策に反映して改善したりはしていると思うが、やろうと思ってできた点、ちょっと難しくできなかった点といったように、方向性を示してこうしようと言いながら、結局十分にできる場合とできない場合があると思う。そこの評価があまりできていないのではないかと思っていて、点検・評価のさらに点検・評価みたいになると、ぐるぐる回るような感じがするけれども、一応示されたものに対して方向性を示しているわけであるから、どれぐらいそれが実現できたか、できなかったか、できないとすればどういうところに問題があるのかといった、さらなる点検的なことが何かあってもいいのではないか。何かそれに相当するようなものがあるか。
教育企画総務課長	○ 今回いただいた点検の評価とご意見を踏まえて、翌年度のアクションプランであるとか、基本計画改定時期にはそれを盛り込んで改定していくということは行っているが、委員がおっしゃられたように、できなかった部分のさらなる点検といった部分は不十分なところがあるろうかと思う。それを含めて今後検討してまいりたいと思う。
委員長	○ これに関しては、これまでも何回かご意見をいただいて、事務局で修正をした結果、このような形になっているということであるので、この内容の修正というよりは今後の方向性に関する意見ということだったと思う。 それでは、第15号議案について原案どおり可決してよろしいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 第15号議案は原案どおり可決する。

傍聴の状況		
報	道	1名
一	般	0名

平成28年8月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成28年8月25日（木）		
2 開会及び閉会	開会	10時30分	
	閉会	11時00分	
3 出席委員	委員長	東 條 光 彦	
	委員	奥 津 晋	
	委員	塩 田 澄 子	
	委員	藤 原 佳 代 子	
	委員（教育長）	山 脇 健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	安 田 充 年	教育次長	天 野 和 弘
統括審議監	小 西 洋 史	審議監（学校教育担当）	三 宅 泰 司
審議監（生涯学習担当）	後 河 正 浩	審議監（教育人事財務担当） （人事財務課長事務取扱）	石 井 雅 裕
学事課長	奥 橋 健 介		
5 議題及び結果			
第16号議案	岡山市立学校の県費負担教職員の人事について		原案可決
第17号議案	岡山市立学校の県費負担教職員の人事について		原案可決
第18号議案	岡山市教育委員会事務局職員の人事について		原案可決